

# 教育と文化

みんなで  
考えよう  
人権・同和問題  
No. 259

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

● 問合先 生涯学習課人権・同和教育係 ☎ 03186

## 子どもたちの未来のために

「おはよう」子どもたちの声  
がこだまします。地域の大人  
たちが登校を見守るいつもの  
朝の風景です。この子どもが  
社会で活躍する10年後には、  
どのような世界が広がってい  
るのでしょうか。小さな後ろ  
姿を見送りながら、「この幸  
せがいつまでも続きますよう  
に」そう願う私たちがいます。  
今、この願いが『SDGs  
(エス・ディー・ジーズ)』と  
いう世界的な大きなうねりと  
なっています。

SDGsとは『持続可能な  
開発目標』の略称で、『誰一  
人取り残さない』という理念  
のもと、2015年の国連サ  
ミットで採択されました。世  
界が幸せであるために17の目  
標を掲げ、2030年までの  
達成を目指しています。難し  
く聞こえるかもしれませんが、『  
貧困をなくそう』、『飢餓  
をゼロに』、『質の高い教育を  
みんなに』など、当たり前の

取り組みばかりなのです。

『食料事情』を例にとつて、  
考えてみましょう。世界中で、  
7〜8億人が飢餓に苦しんで  
いると言われています。一方、  
日本では、2億人の命を救う  
ことができる分の食料が、廃  
棄されているのです。

私たちは、それぞれに幸せ  
を求め、明日への希望を持っ  
て暮らしています。一人一人  
が尊重されるべき『対等』の  
関係なのです。私たちはコロ  
ナ禍を経験し、お互いにつな  
がり、支えあいながら暮らし  
ていることを強く認識しまし  
た。私とあなた、あなたと私、  
閉塞感のある今こそ、みんな  
が対等であるという**当たり前**  
のことを意識し、その輪を広  
げていくことが必要です。

SDGsは、世界の人々の  
人権に関わる緊急の課題です。  
一人一人が対等の目線に立ち、  
明日を担う子どものために、  
行動につなげていきましょう。

## 郷土の文化財

伊万里・鍋島ギャラリーの名宝③

● 問合先 生涯学習課歴史民俗資料館 ☎ 0227107

### 青磁桐文香炉 (鍋島焼)

今月は青磁桐文香炉を紹介  
します。これは、1700  
〜1740年代に作られた  
鍋島焼です。

青緑色に発色する青磁釉  
をかけて、焼成した磁器が  
青磁で、香木をたいて香り  
を楽しむ道具が香炉です。

鍋島焼は、江戸の徳川将  
軍家への献上品として、佐  
賀藩の鍋島家が鍋島藩窯で  
作った特別な焼き物です。

胴のほぼ中央に一本の陰  
刻線をめぐらせ、上部には  
陰刻で桐の文様を表してい  
ます。下部には、白化粧土  
で桐の文様を表しています。

青磁釉を透かして見える  
2種類の桐文が、小品に上  
品な美しさを添えています。  
これらの文様を包み込むよ  
うに、三足の畳付に至るま  
で、外側すべてに青磁釉が  
かけられています。

内側の底だけが無釉で、  
窯で焼成するときに窯道具  
で支えた跡が18個、円形に  
並んでいて、逆さまにして  
焼成したことがわかります。  
これは、香炉を使うときに、  
窯道具の跡が灰で隠れるこ  
とを意図した工夫です。

献上品としての配慮が行  
き届いた、非常に手が込ん  
だ作品で、市所蔵の鍋島焼  
の中でも屈指の名品です。

● 伊万里・鍋島ギャラリー  
(☎ 022267)



↑青磁桐文香炉